

# 「市民とともに読み解く神戸の戦後生活史 -戦災をめぐる映像資料の新たな可能性を考える」

事業責任者 国際文化学研究科・教授・長志珠絵

## □取り組みの概要・目的

戦後直後の神戸に残された生活・生活空間資料としての戦災資料として、特に画像・映像資料に注目、整理した。

→報告集『＜神戸空襲を記録する会＞の戦災アーカイブ(A4,82頁,2024.3発行)』に収録

→新たな実践として、市民とともに読み解く試み開催

・2023.11.20 地域の歴史グループとの「防空壕」画像(米国戦略爆撃調査団報告書掲載一研究代表者による調査・入手)をめぐる意見交換会



→さらに長田映画資料館  
での市民向け  
上映・解説のシンポ開催

「市民とともに読み解く神戸の戦後・戦災の記憶と記録  
—映像資料から(その1)」

2月3日(土) 会場 神戸映画資料館

参加費 無料 長田区殿塚町5丁目5番1 アスタくにつか1番館北棟2階

プログラム 10:20-12:45(開場10:05)

・主旨説明・司会 長志珠絵(神戸大学)

・「戦略爆撃調査団:USSBS報告書とは」佐々木和子(神戸大学)

映像- USSBS神戸フィルム(昭和館DB版のブルーレイ化版を映写します) の上映 50分

・「USSBS神戸フィルムの撮影手法と映像分析」

衣川太一(映画資料館)

・「USSBS報告書が目にした神戸の防空壕」長志珠絵

・コメント 小城智子(神戸空襲を記録する会)

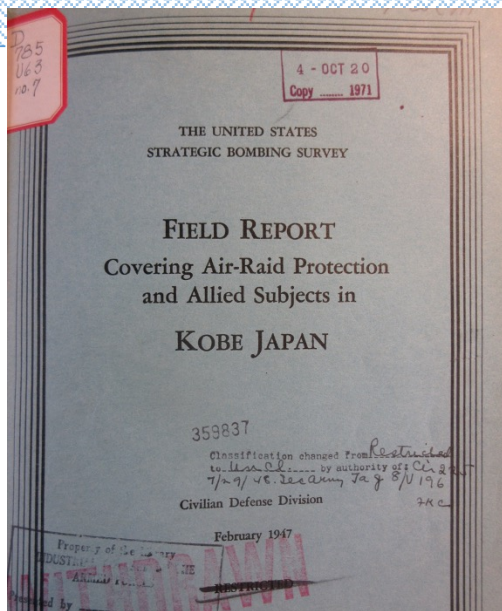
・参加者からの意見・情報交換等

戦後直後の「神戸」は、戦災・占領・復興が交差する街でした。

ここにやってきた米軍関係者の中には、日本の空爆効果を調査した米国戦略爆撃調査団の姿があり、カメラは、写真やカラー動画映像によって街や人々を記録におさめています。本企画はこの映像を視聴者と共有し、街や人の生活を紐解き、読み解く試みです。

お気軽にご発言・ご参加ください。問い合わせ先 : s.osa@people.kobe-u.ac.jp

主催: 神戸大学地域連携事業2023  
主題: 「市民とともに読み解く神戸の戦後生活史-戦災をめぐる映像資料の新たな可能性を考える」  
代表: 長志珠絵(神戸大学国際文化学研究科)



神戸空襲を記録する会関係資料集6  
＜神戸空襲を記録する会＞の戦災アーカイブ

目次

＜神戸空襲を記録する会＞の戦災アーカイブを編むにあたって…………… 4

I 神戸空襲を記録する会のアーカイブ一環期間のころ…………… 8

三木啓子さんと中田敦子さん…………… 8

1980年代の「神戸空襲を記録する会」…………… 17

II 地域の戦災に関する映像・視覚資料…………… 22

神戸の防空壕…………… 22

III 記録する会戦災アーカイブ及び神戸市収蔵戦争関係資料目録…………… 33

解説…………… 33

資料解説…………… 34

記録する会戦災アーカイブ目録…………… 74

神戸市収蔵戦争関係資料目録…………… 79

## 上映とシンポの様子



報告書(本一部協力記載あり)